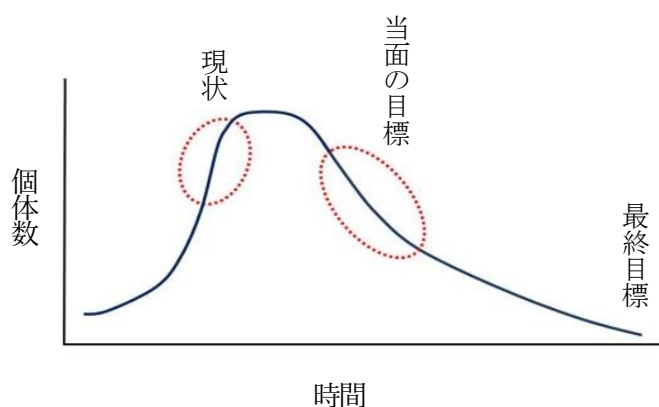


## 今後のキョン防除における基本戦略の方向性

千葉県キョン防除実施計画では、最終目標を根絶としているが、まずは個体数の増加を抑制し、減少フェーズに移行させることが重要である。この当面の目標を達成するための基本戦略の方向性を以下のとおり整理した。



### 1. 局所的な密度低減・根絶の実現

平成 19 年度の推定個体数が 3,400 頭（中間値）であったが、平成 27 年度の推定個体数は 49,500 頭（中間値）と、個体数が急速に増加している。

このため、高密度地域を中心に、局所的な密度低減・根絶を図るため集中捕獲を実施する。局所的な密度低減・根絶地域を拡大することにより、高密度地域の解消を図る。

### 2. 分布拡大の防止

平成 19 年度にキョンが生息していた市町村数は 5 市町であったが、平成 28 年度は 11～12 市町にまで拡大している。

このため、分布拡大を防止する上で重要な地域を分布の外縁部から選定し、集中的に捕獲を行うことで、分布の拡大防止・縮小を図る。

### 3. 全体的な捕獲数の底上げ

キョンの個体数を減少させるためには、1 及び 2 の取り組みを実施していない地域においても捕獲を強化し、全体の捕獲数を底上げする必要がある。

このため、市町村に対し捕獲目標を提示するとともに、市町村による捕獲を促進するた

め補助金の増額について検討する。

また、キョンは狩猟獣に指定されていないが、狩猟獣に指定されることで捕獲数の底上げが期待されることから、国に対し狩猟獣に指定するよう要望を継続する。

#### 4. 技術開発の継続及び普及

キョンの効率的な捕獲方法が確立されていないことから、引き続き捕獲方法の開発を行う。また、捕獲の推進にあたっては、ネコ等の錯誤捕獲の低減が課題であることから、錯誤捕獲しにくい罠の開発を行う。

加えて、キョンは外来生物であり、基本的な生態が解明されていない。効率的・効果な捕獲を行うには、基本的な生態を解明する必要があることから、キョンの行動や餌の嗜好性を把握する。

なお、開発された捕獲方法や明らかになった生態については、各種会議や研修等をおし、関係機関や捕獲従事者に普及する。

#### 5. モニタリングの強化

生息状況を把握するための糞粒調査を実施するとともに、近年、確度及び精度の高い推定方法として利用され始めている階層ベイズ法を用いて、個体数を推定する。

また、狩猟者を対象に、狩猟期間に出猟した際に目撃したキョンの場所や数をアンケートにより収集し、キョンの生息状況や目撃効率を把握する。

さらに、関係機関と連携し、捕獲情報や目撃情報を収集する。特に、未定着地域における目撃情報を収集する体制を構築する。

表1 キョン防除における今後4年間に実施する主な施策について

取組		H29	H30	H31	H32		
戦略1～3	捕獲	局所的な密度低減・根絶のための集中捕獲	←→	→→→	→→→	→→→	
		分布拡大防止のための分布外縁部での捕獲		→→→	→→→	→→→	
		全体的な捕獲 圧の強化	市町村への捕獲目標の提示	←→	→→→	→→→	→→→
			野生獣管理事業補助金 (県補助金)	←→	→→→	→→→	→→→
			補助金増額の検討		→→→		
			鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業 (国交付金)	←→	→→→	→→→	→→→
			狩猟鳥獣化への要望、国との協議	←→	→→→	→→→	→→→
戦略4	生態の解明	行動様式の把握	←→	→→→			
		餌の嗜好性の把握			→→→	→→→	
	人材育成	関係機関向け研修	←→	→→→	→→→	→→→	
		有害獣捕獲員研修	←→	→→→	→→→	→→→	
戦略5	モニタリング	糞粒調査の実施	←→	→→→	→→→	→→→	
		精度の高い個体数推定	←→	→→→	→→→	→→→	
		最新の分布状況の収集	←→	→→→	→→→	→→→	
		捕獲データや被害データ等の収集	←→	→→→	→→→	→→→	
		狩猟者アンケートによる目撃情報の収集	←→	→→→	→→→	→→→	
		自然植生への影響の把握				→→→	
		捕獲個体の分析調査	←→	→→→	→→→	→→→	
	情報共有・ 連携	野生鳥獣対策本部会議	←→	→→→	→→→	→→→	
		地域野生鳥獣対策会議	←→	→→→	→→→	→→→	
		東京都との情報交換	←→	→→→	→→→	→→→	
-	防除	防護柵や捕獲機材等の購入に対する助成事業 (国交付金、一部県補助金)	←→	→→→	→→→	→→→	
	その他	住宅地での捕獲活動の支援	←→	→→→			
		防除計画の改定				→→→	